



百人一首解

3772
~ 4



百人一首解

全

利門
4
號 3772
卷

友正七年三月六日寄
室井平藏

百人一首解序

人乃心をまひてしるはるるにあらはれ
魂もこゝろのまはるるをこゝろのまはるる
糸のこゝろのまはるるをこゝろのまはるる
乃いのまはるるをこゝろのまはるるのま
うのまはるるの糸のまはるるをこゝろのま
家のつと人のまはるるをこゝろのまはるる
しよりのまはるるをこゝろのまはるるの

ちよりのほしきまゝに（あはれ）りりり
 と詩といふ人も人のもたぬに（あはれ）りりり
 ちよりのほしきまゝに（あはれ）りりり
 と今のまゝに（あはれ）りりり
 ちよりのほしきまゝに（あはれ）りりり
 と今のまゝに（あはれ）りりり
 ちよりのほしきまゝに（あはれ）りりり
 と今のまゝに（あはれ）りりり
 ちよりのほしきまゝに（あはれ）りりり
 と今のまゝに（あはれ）りりり

人よまゝに（あはれ）りりり
 ちよりのほしきまゝに（あはれ）りりり
 と今のまゝに（あはれ）りりり
 ちよりのほしきまゝに（あはれ）りりり
 と今のまゝに（あはれ）りりり
 ちよりのほしきまゝに（あはれ）りりり
 と今のまゝに（あはれ）りりり
 ちよりのほしきまゝに（あはれ）りりり
 と今のまゝに（あはれ）りりり
 ちよりのほしきまゝに（あはれ）りりり
 と今のまゝに（あはれ）りりり

けさまふまふと云の百と云乃平人の
 志はあつた心をもとに軒の志のふ乃
 志はくさくさ多や
 多うう乃曆もさすにうさたは
 少しは夏源英暉近江國粟も
 乃里くさくさくさ

百人一首解

百

栗本藏



天智天皇

題 後撰集秋

秋乃田の **か** **い** **か** かりとあつたりし庵ん
それと秋の田の刈とあつたり

此 この 庵乃管とあつたり かりとあつたりし庵ん
わらわのあつたり

我 田と字
子人 衣子袖 **た** **き** **の** **露** **いたく**

ゆき 守あつたりし
くさきとらふ

持統天皇

新古今集夏

百人一首解

栗本藏

まろるるや **い** 夏來に夕し 上二句 下三句 白妙の

あろきへ色のあざれは。あかく 夏よるれど。夜と曝涼 夜ほそてふ あうらう。あれど。是は

えとあうて。夏あは 天のかぐも 大和國高市郡○萬葉集の 常陸舟にも筑波嶺に布と

はせかますと ともり

柿本人麿

題志々々 拾遺集總

あーいまきの いんじんあ の枕詞あり わまどりり い鶏のお尾

乃志ずりお垂尾の いんじんあ の序あり なづく

疑む

はつ

一 **き** 茶と あはれんてき ひくも 獨り、疑辭も

貼辭 寐人 平よ 山鶏ハ。雌雄山の尾とるぞとてゆとものあれた。

山邊赤人

題志々々 新古今集冬

たこのう 駿河國 廬石郡 に従 うら ち ゆ くと い くれ

む志ろとへの 雪の積 不 い 尽 山の名○渡河 國富士郡 のる

根 たうきまよ の累 よ 雪ハありほ

猿丸大夫

是貞乃之こ 仁和帝弟二皇子右中将 の家乃歌合乃

と 平 古今集秋よみ人志し決

たぐふ 鹿の住 又とさ の 紅糸 の ぬきま てた けてた 人の

なく麻の声 と きく時を の 秋を

のふしき もの じとよ

中納言家持

歌 新古今集冬

かさぎ 鶴倭名加佐々本 のまを 鳥鶯橋○宮中乃御踏よたと

たらしり。鳥鶯橋邊散御遊とつらける。蘓頌が詩たどつてゆへべし。 のうへ に 霜乃

志乃きと 宿直に えき いた 矣 あ けよ

きふ

安倍仲磨

もろ 仲まろと。もろあしは物 月風

ん 古今集羈旅

あま乃 あまといんきり ぬりさ ぬりさけ けし

振放見者。遠く見るさふ。 月 大和國 表 係上郡 乃 ふ り

三笠の山 春日とに 同所 に出く月も 疑辞

喜撰法師

題 古今集雜

けの庵をさやこ 平安城 のたつ にわたり

あう 去うがをむへがこにむむとけが居不と人にさう せ 辞○さういきまを林とるのいよみしむ久えよ

とう 山城國宇治郡。也と 人といふ さういふ

小野小町

題 古今集春

は
り
む

花 櫻 乃 魚 色 い う ほり うらふもほし。に

かり 歎辞 い さう せ み 我身 在 に ある

経るの雨の なが 絶 詠一霖雨 せ 間 花のうらふも

の丹ころへゆく人妻となげく。

蟬丸

香坂 近 田 の 関 都と物 邊 は路 室 よ

と は くら り て 任 け る 人 都人

関とくして。東海東山小陸木の諸國 と 人 蟬丸を

百人一首解

日

東本齋

いへるあまのそとぶとかなる。この詞書
わくもあまのそと。後撰集 雜

あまのそと 二つ物のあまのそと 人 もくへる 人 も

けられてい 集あまのそとあまのそと 人

もあまのそと 上二句下四句。あまのそと 人

故也と。解
あまのそと

冬議公望

隠岐の國よあまのそとあまのそと
續日本後紀
文德實錄

あまのそと あまのそと 人

あまのそと

系なる人 友のあまのそと 人

けさなる 海原 わさ あまのそと 人

備出ね 系なる 人 花の色とのそと 人

つげよあまの釣 海原よりの使なれた。海原 人

僧正遍昭

五節 毎年十一月中の廿の日の 人

あまのそと 己下。四日の同行とあり 人

あまのそと 雲の風よはうとあまのそと 人

は
？

光孝天皇

仁和帝みこ 親王 まおろしゆり

時よ人よけふ 重いなる水乎 古今集春

君 いみじくは上下がため たく身の野よ出く

若菜 がつひ我 自衣手袖に雪のふりけ

ふりけい。ふれどもとりやほし。好き
ともいそそけふかとうつ。結いーと也

中納言行平

いさげの守なりしが 文徳實録云齊衡三年
正月丙申。從四位下在原

朝臣行平為
因幡守 何そそみやこののちりきるに

おりの人 女ふよそそほり 家集

まわつていあ 因幡國は美那福羽伊奈。
まわれぬいさげとよまにをさり 乃山

まねよおるま ねよ侍
とよせり こと 助辞きくは

おりの人のまねと
待ときくはと 今 まく まれと まま まと まと まと

在魚業平朝臣

二条后 清和天皇后。陽成院御母。
贈大政大臣藤原長良公女高子 の東宮乃

まを まと まと まと まと まと まと まと まと まと まと

立田河より紅糸ながれわたるのささけ

ありと影をよめふ 古今集秋

ちとわぶりの 神といふ人の枕詞 神代 もきう次 上二句下三句

そと河 大和國平群郡 かくく種たの 韓紅の錦なりの中

従水 くくふ と い 紅糸と錦はさしとあつせのさかめげりまきさかといひしよわきしまもさし也

藤魚敏行朝臣

寛平の内時 宇多天皇の御宇 后宮 昭宣公女温子 乃奇

合の秋 古今集戀

住乃え 攝津國住吉郡 の名 より 波 一二句ハ序にしそ

よふ えへ や いふまじて人同し 夏の か くら

人 た 免 と しく 避 らん 夏よがたをさよの

併勢

影 あ くら あ 新古今集戀

な い ぐ さ 根津田川邊郡 み い ぐ き 芦 といふ人さあ小とく終句 草の

ゆ い れ ま あいのゆいのまといひいづきまあるが中 み い ぐ き 草と 設け け い ぐ み ぐ き と い ぐ

も あ ぐ て 不達 ぶ 乃 在 せり 草 を と さ ぐ と ぐ と ぐ

あけはななく花のちりらん

藤原真丸

題あけはな 古今集雜

誰ととも助辞 志る人よせん いしも老くそむい乃友の一人がたわばなりしる友

かりもゆ乃松 橘慶園高砂尾上の里と もむし

の我友あにのらなく 莫よ わまわの我方の老くを

ものせといつり○非情のものまをも志る人ふせんをいふまきとひそのためしすかき

紀貫之

が

まろを 大和國 城上郡 にまうづる 長谷寺の觀世音の

やどりまろ人の家よ 久しくやどるぞ

やどる後いそげりまねの家の

あり いそげり 門たぐもまねとてくるま

なんや いそげり まき音づれがしとらるる

きれ 其所 またてり 所植 梅の花

をひりそよめる 古今集春

人いそまろも志る 人のおろもいそまろ

○吾いむしよむるわあは中りぬるさとい
貫之やどうきも
わいどちとわがほるきほりなり
不こと久しくさる
きさるゆへにわがさとい
花 **ど** **ひ** **う** **の** **ら** **ぬ** **香** **に**

つり **梅** **乃** **い** **は** **こ** **よ** **月** **や** **ど** **う** **ん**

清原深養父

月乃いほこよ月やどうん やぎんなく一声

よめ 古今集夏

夏の夜をまよふ 初夜 ながうあけぬらと

雲乃いほこよ月やどうん あくることよめ

が
ろ

文屋朝康

延喜の内時奇めし 後撰集秋

志す露よ風のぬれ志く 吹頻 秋の野へは

ゆきさよめ分玉 玉の緒して貫之 ぞらりきふ ともものほを也

右近

おとれまをたごよらげ乃いぬをそ

おとれまをたごよらげ乃いぬをそ 大和物語

つり **身** **ぞ** **は** **こ** **よ** **月** **や** **ど** **う** **ん**

ものいひゆるるらんかの。後よほをさけり
てさうにわらふがゆりまねむ 拾遺集戀

あまねとをいひあまき人女のゆもあそで あまねとをいひあまき人女のゆもあそで

死のまになりぬ ふへきふか 歎辭

曾祿好忠 題 志 新古今集戀

由良 丹後國 文謝郡 の門をわらる舟人 の 梶 檣楫の類をへ

ととえ 断絶 上二句を序 ゆく来も志しぬ ゆく来も志しぬ

惠慶法師

河魚院 左大臣融公の住 こそ荒るる宿よ秋 多し一家を

八身津志 六條河魚院 乃さひしきん 乃さひしきん

人あそいしね秋 人あそいしね秋 味いされ 味いされ

冷泉院東宮とよきう時百首の寄

ちりきるいよあふ 詞花集恋

風をいひ風のつよき也。管と
あゝみのみのおとし思ふいふあゝ

とのまねここゝろつよか
うはなせくはけくおをあひあ

大中能宣朝臣

題去々詞花集恋

みりきり衛士のたきい乃宮衛令云其宮門皆令衛士

炸火よりのいひいひもえいひるいききけけ

物とあそびなり

藤原義孝

とんちり許よゆりてほり後拾遺集

君女がため小のきのよねまをらいのわらぶのわらぶ

吾今命あのあななくもぐらね願辞とみいりふ

う、歎辞の連なり。ひぐとみひいときふそ命乃
ゆきとよめる。藤原義孝の寄。中くわひく屋よげの

藤原實方

あよとくめをいひつうとくもる 後拾遺集恋

かく

さかひらひき

下野國伊吹山あり

○詠よしいい

乃さしをく

上三句の序の體ふらし

の畧語も。後治は月かあるほど。

さし

さしもまよ

さしゆみ

まのいと大よそへて。

と

藤原道信朝於

とんかのもしんまうり

につらさし

家集

あき

くくもの

俗よとれども

うらめしきあさ

右近大将道綱母

十月晦日

攝政兼家公

志きりる

二二日

道綱母の

家の

門も

兼家公

たぐ

めりし

か

外の

家

たぐ

もの

和泉式部 蜻蛉日記

かひきつ君がこゝろいりぬ寐る夜のおくるまは

いんいんごり久しき物とらサガ志る門あくる

とらぬ。選しとてかへやどりうまきよひ。いく夜さうあままで。ひよりぬる夜のおくるまの久しき物とらげきよひとせせあそまり。○蜻蛉日記は道綱の母の日記也

儀同三司母

申の関白道隆公かしのめゆりきり新古今集

いもと乃とひと来とまでといときとれ

た今命今と今り今の今命今と今り今の今

了れ

大納言公任

嵯峨の大覺寺山城國葛野郡○そのうみ

はうりて志まきり嵯峨天皇のまきりませり

ゆきふ千載集雜

滝大覺寺のあり滝也○乃今音今の今音今

久今く今き今り今ぬ今も今と今

和泉式部

あつち例なうはけりきり人男のもん

つうちしきふ後拾遺集戀

あさあらんけせの介未世乃其い物

今一いいのあふいとようもが那ともくかわがやまはう

紫式部

ちやく若いさんよわわら友いふけり

きり人のとーはつてけあいるいかい

いいまいて七月十日いちう月いよいまいて

いとぎうりけりりいたい新古今集雜

めいぐりあいえいわいそれいかいといまいらいぬいのい

まいにいまいがいくいまいのい十の月いよいまいらいぬいのい體也

い新集の月形とありてあまの月形をうぬ。いこのはよりうまの月形を
わける本也。あまなり。女形人た近が我とまてまうくれぬを月形とを
よえり

大貳三佐

ういねいくいなるいけいそのいぬいらいるいおいのい男の

いういていけいるいるいわいるいいいらいるいまいらいるいよいあるい後拾遺集戀

百人一首軍

世三

大貳

ちりねく平上人の方人乃ゆりきると申
教の撰とくもく
 納言定頼。鳥のくたはまうて見く。平の
 いくせきかのみ。丹後へ人ほく
 きんわ。はくいひまうてさくわ。いくん
 もくわく。おんた。ふくまうて
 之くふと小式部が哥ハ。母の和泉式部のよき得
 さまれむ。よきをきく。いふあのみあまかん
 それとふくまう。かの母の在る。丹後へ人ほく。て。一と
 并と得りあむ。定頼乃あまづりいつかなむ。く
 めてよめふ金葉集雜

大いふ丹波路乃幾野丹波のの道の遠くはく
いりり也
ゆき也

へきふ踏ともふと天のさくそ丹後國と謝郡。
文と
當意即妙

伊勢大輔

一乘院内侍。まゝらの八重さくくそ人乃
 なるきると。まひりはさくゆりたれ。其れと
 野くそ平よあと作が。ありきたり詞花集春

いぶのふれ都元明天皇より光仁帝の八重櫓
まて七代の都也

今日九重内裏のあのかのしもよありの離騷曰君門
ま九重の八重より九重とけけり

白いねふらうみ

清少納言

大細を行成と納言とものごとりまとつらとん。

内れはものいと禁中の内物忌○怪がはらきままなとあるまきは物忌せま勢まみ。

其時供ませる公々の。其の子の時とりに。あの種ととてまり也。その時よりの明日の属と種也。

いとぎうりて夜半のつとめて翌日とり鶏の

声よもよと種といいぬとせゆくとらと

ゆりきたとぬと行成のたときとうとはとたと。

茶ぬりりきりるの声の。函谷関のおとと

しとわと盈掌君が三千乃客の中に。鶯乃なくまのを。

はしの鶯もあきんよと茶ふうきは関を。あけて通しきる。史記乃故吏なり。と又いつつし

まりきりと乃使立うりあまいあま坂の関

君と我と。茶飯をたまとあまいうら。よゆくとあ種を。

よめる。後拾遺集雜

茶とあめて茶ゆきさのれそう音はとうるたむなり。

○鶯の声とまのぶくともよとせにあま坂の関はゆか五台とこうなとも也。

百人一首解

九四

栗本流

居あうて物ころりたききふ

周防内侍よりふしと枕をが那

枕のあけりしとゆしむるなり 志のむやういよと同

大納言忠家より枕をとる

かひふ耐とみきと翠簾の志よりし

いきてゆりきしとよゆりる 千載集雜

まじ英乃爰むり 春の英乃みどり 子梅

かひなく かひなくとよせしむる 人急しとゆり

三條院

例あうてはさまして位なとさる人

めしき は神國ゆりかぶるうけあうよりゆりる 月

あうてはさまして のあうてとゆり 後拾遺集雜

ゆもあうてうき世にさる人 いづれゆりる

あうて あうてはさまして るき いづれゆりる 月

宮中の月の名残とよみふなり

能因法師

永義四年内裏奇合後拾遺集秋

あしゆく。三むろの山大和國
三市郡れもくちちま

きんこの川乃ありきなりきり

良暹法師

野一らふ

後拾遺集秋

さびくさ宿とまむくなくしきむ見ま
せむ

いづくもあはれ秋の夕ぐさ

大細言経信

師賢朝源氏の冬議
資通子の梅津山城國
葛野郡の山里

いづまかりて田家秋風といふるあふ

よあふ金葉集秋

夕さ秋む夕さ門田門乃希
ある田といふの稲葉に

つとちてあしれまらや題の田家
とていふは秋風をふく

祐子内親王家紀伊

堀河院中時勢書合内を殿上人奇しむ
きこむらむやづ人の

よあふ中細言俊忠もこのけさうれ希
やれとあせま

人志あまのありそれう

越中園の名不也。たし名跡あり

たきごちまはし風なまはよりそいふ

けし とよみ 久し 金葉集戀

音のきくたりの溪 和泉國 大寺郡 乃あまの

男とつふかりはかけ 袖のぬき

もあをす あまの

い。師のたまはれとあま。又あまのあそそよみけるん。あまのあそそよみけるん。一辨の男とあまのあそそよみけるん。

権中納言匡房

うらのあかいまうらぎ 四大臣○後二条 関白師通公 乃

家七人酒をうへ 舟よ

遠よ山様と 後拾遺集春

たきご たきご のとのへ 乃 様さきん 外

かん 下知群○よのつひの尾上もよく又ゆるかたど。印のよを成そくど。又ゆるかたど。題のみらくきりそとよ

源後頼朝片

権中納言俊忠家十首 舟よ

くつ新不道憲といふを 千載集憲

うかりきり人 いのれどもく とくろせ 幼衛よをていのり

る。六帖の平より 乃ふぬら ふ下凡也。やま たさろせ うけきぬふもとい

わやくよあり つゞきと。まがーといくん耕。ふ母はしき言をさぐくまらる。の 流布の本ありよの字と脱しきるハあやまらう たげ

わくわ ○ふよく人のまがー まこと いいのぬあを うらわらんとせまがー

藤原基俊

僧都光覺

基俊の男。真福寺の僧。権僧都

維摩會

十月十日

この間。真福寺 乃 講師の請 講師乃請と蒙るる僧ハ

くして有る ふもせらるる例を 諸僧の望む所 とくもたはけきた

法性寺入道希大政大臣 忠道公

うらみ 真福寺の藤原家の存の事

不分明りし。基俊子の光覺見 けませさせると形くまら ためららるる 下野國

少作り 親音乃。内平と云。終ふおめ

又れ世の中いわんうきりてとらるるを 我せのてあんやいんぞの望とまことへを終む。終末と終る是

又そ乃 乃 乃 乃

ちぎりきき

ちぎりきき

志めらげると
驚りききき

させし

さうも茶のさせし
さうもはやく

と命

たの

に

て

あはれ

あはれ

あはれの秋もいぬ

十月をこみたる
はく秋の内より講師

のさめあわゆる

法性寺入る茶園白大政大臣

新院 崇徳院

佐よおしはく時海上遠

望 抄よいゆわく 眺望とひきつた
本集に遠望とありて ありたり

あいらるよめふ 詞花集雜

まの原

舟

ちぎりきき

と

まの原

枕詞

まの原

山宗徳院

題 志 詞花集戀

瀬を

さわき

あはれ

の序

あはれ

あはれ

漁兼昌

閑路千鳥といふことよめり 金葉集冬

あたら^ら鴻 淡路園 かよふ千鳥のなく声よいく

茶^ら寐^ざめ 志ぬ 心 野^の閑 根津 守 よの

きしむくろあたら
鴻とよめり

九点大夫顯輔

累徳院よ百首け弁なりきる 新古今集秋

秋風よきま ちらみ じく 乃 雲のふしはよめ

もよめる月のうき乃さやけさ

待賢門院堀川

百首け弁なりきる時恋乃あらくと

よめり 千載集戀

か^らか^らあ のらん の や 其 人 の 心 も 志 す は 上 二 百 果 髪 乃

つがま髪のみながくて人の心いし
みどくきもまはるとり 髪のみゆるい
みどくきととる

け^さ 後 朝 の 心 も 志 す は 上 二 百 果 髪 乃

後徳大寺九大臣

曉園郭公といふ心を説けり 千載集夏

後惠法師

戀れうとよめぬ 千載集意

よもほし

つとみきんゆい
月もあはれ

あけやわぬ

ほろろかきん
のしづか

上二句
下三句

あけやわぬ 国のならま

国のならまきくも
とまのま

さへ

とつとま。つとまきんゆいのみか。
国乃らまはれども也

つとま

くあ
あはれ

西坊法師

月茶戀といふあふると後る 千載集意

かげよと月やいあと思ふ

月影さげと

終

かくわんはよすあひ
ものせりあはれん也 ちのこ 俗は何がやきんゆい
〇もつつけがな一ま
なるにつとま つとまきんゆいと
まのま つか まきんゆい
なま つか まきんゆい
なま

寂蓮法師

五十首并きりし時 新古今集秋

むさわれ

跡を
名残

おほも

ま せい

上二句下三
句

や
て 真木

ゆやま
わらあ

のひまよき たら

深
乃

秋乃夕くれ

ゆき
の

百人一首解

廿五

栗本齋

ゆき

辞とわらわてゆき
事のはよきをいふ

たれどわが袖乃
おしくかく

いほた

かた

とて 血の洞は袖の色のゆるをり
○紅涙ハ伊勢貫之
等乃よめる奇あり○周易韓非子あざい出

詰あり○ゆきくる袖をはきかき人の
又せむやふと下よる發句へくらしめる辞

後京極権政兼大政大臣

百首奇事一時

新古今集秋

きりく

蟋蟀○俗
こほろぎといふ也

なく

鳴や助辞

おねの

さむし

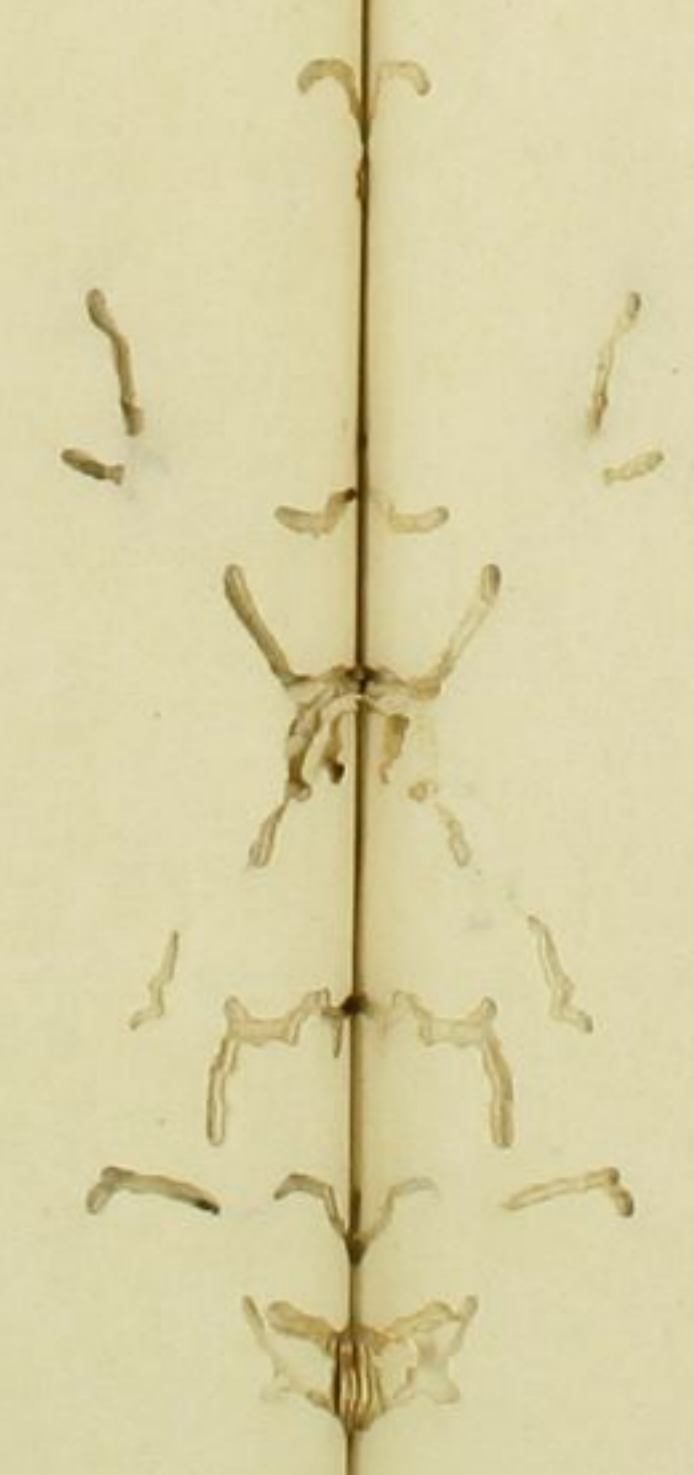
さむしろう
さむしとさむし

ふ衣ととき

衣とときとさむし
やとよめる辞いふなり

ひりも福人

茶の人磨の哥の格句の扱也
○秋夜長乃意



了
ね

二條院讀岐

×寄石戀といふあゝと千載集戀

わが

袖ハ上一句
下四句

垣干に

だよ

えくぬ仲のふ乃

く

人丁と志すね

あ

かむくまもほ

壁の喩の辞

鎌倉右大臣

題志

新勅撰集霸旅

在のちいつ

常丹毛菫名○不愛にもわれ
のこ形は辞也○上一句下二句

なぎさ

なぎさ 満 あまねるふね乃 網手

舟に網つけ
て引とひ

ゆり 庭の雪よりゆり ゆくものいれ我身たるも 今人還對落花風

権中納言定家

建保六年

順徳院 未詳

内裏平合急所

新勅撰集 惠

おぬ人とまらかの浦 淡路國の人と 乃夕たき 侍とよき

夕に風波のまらまらと。海のけきれみまららに 燦々 即秋も

不藻壁の 乃もたれつ 淡路國。松帆の浦にまよる夕

從二位家隆

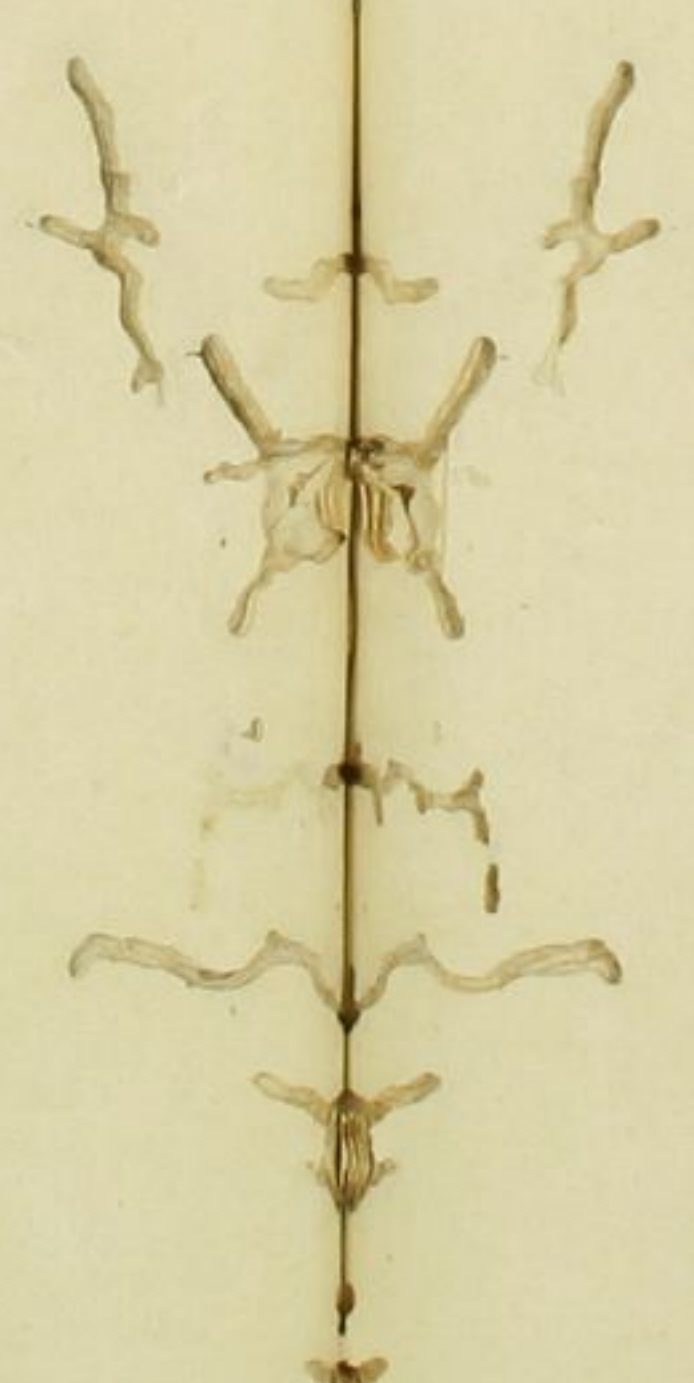
實喜元年

後堀河院 未詳

女清入心

藻壁門院 〇十一月

3



屏風

新勅撰集夏

風をよぶあつのを川 山城國葛野郡〇風をよぶ橋とあつのをあふけり〇橋乃あふ

およぶ夕暮し。源頼綱もよあり 乃夕たき のけハ みもき 秋

六月の末。河原にゆく杖とする。本すあり 乃夏の志 乃

後鳥羽院

影志 後撰撰集雜

人もね 愛 人もう 上一人よ下若民よ

け情あふるいあ あげきなく世瓜 上二白下之白

七

長

おのれへ北條家園政とほしきゆりして終遠有らうとせ
ゆふゆふとくたはたあぢきなく憂ひゆりしやあはれとくたはる

を
おのれゆり
手亦於業

順徳院

題志々次 續後撰集雜

百しき

内裏と

やふるき軒場

玉のかがり小宮中乃
ゆるき軒場となり

あぶ茶をぐせし。言と設て
王道のあはれとのまづり

の志のよ

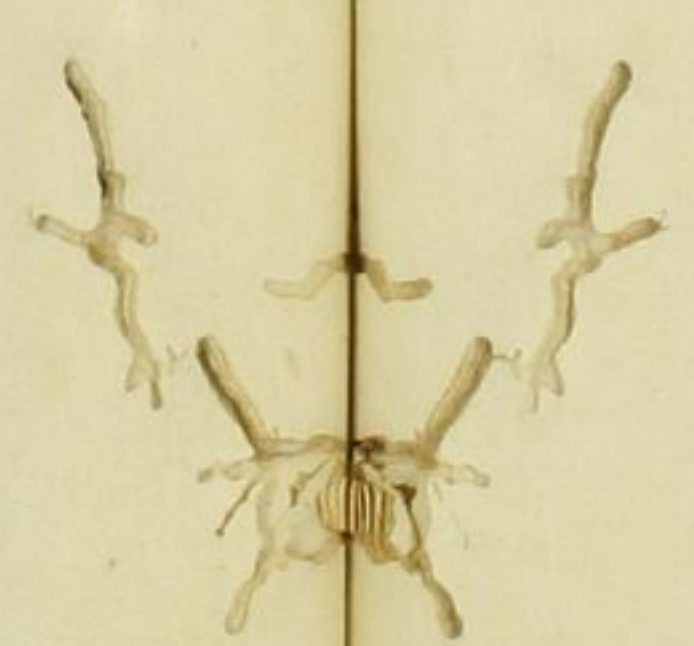
茶乃こも
ゆるきしうと志のよ
あはれと茶の名よ

いん

たくとあまりつるむりかな

此帝も
父帝と

あはれはまなる
あはれなり也



寶曆六丙子乃

栗本英暉解

東都書肆申椒堂須原屋市兵衛梓

明和八年辛卯七月

俳諧題集

徳休子撰
諸侯發句集

五冊

道休子撰
二夜問答

徳休子撰
二冊

芭蕉桐の一葉

二冊

同 茶花より道日

一冊

其角雜談集

二冊

同 蕉宜集日

一冊

素園集

皇白手抄著

三冊

同 文要語日

一冊

硯乃筏

紀途編

二冊

同 書より日

一冊

冬

素園白扇著

二冊

同 寒葉齋畫譜

唐畫より 五冊

根を草

風多山人著

五冊

同 水乃ゆゑ糸

東作著 五冊

志道軒傳

石日伝

五冊

同 俳諧不斷櫻

高点的白 全

左傳屬事

南陽先生校
唐本翻刻

廿二冊

大明十三省圖
萬國一器界圖

二枚

龍門先生文集

二編

三冊 歷代事跡圖

大清吳翰訂正
中華之大繪圖

一枚

大疑錄

貝原先生著

二冊 物類品騰

平賀鳩溪著
物產之書

六冊

經義折衷

金峩先生著
評李陽明傳齋集

一冊 十體千字文

篆及異體

一冊

陸賈新語

蘭臺先生校本

一冊 六體千字文

崑陵先生書

一冊

王元美尺牘

一冊 猿橋碑銘

諸名家之文
筆墨本

一冊

易學辨疑

金峩先生著

一冊 字畫淵海

筆法之書

二冊

大史華句

唐本翻刻

三冊 石印集誼

彫刻刀法

二冊

拋入花の園

古人花
乃必式

三冊 寐惚先生文集

狂詩
小本

一冊

花千筋藤の作

玉時

八冊 小説土平傳

狂詩
小本

一冊

古言様

万葉集の詞
魚考撰

一冊 笑府

唐ノオトシハナシ
小本

一冊

百人一首解

栗本氏作

一冊 唐明詩鍵

詩作ノ書
小本

一冊

久乃志る人

古き文の類
近刻

八冊 大東地名箋

詩作ノ書
小本

一冊

志る人料理集

舎摩の
料理

一冊 詩學小成

詩作ノ書

四冊

民間備荒録

西ノ民と
刺ノ書

二冊 又字法帳

松花堂の
書札

二冊

信濃地名考

古以終云著

三冊 常盤帖

松花堂乃
書札并詩寄

二冊

| | | | | | |
|-------------------------------------|------------------|----|---------|--------|----|
| 七觀音經 | 略緣起入 | 全 | 癘治茶篋 | 津田玄仙著 | 全 |
| 唐摹真本十七帖 | 明邢子京珍藏 東郊先生摹 | 全 | 外科撮要 | 青木絙制子述 | 二冊 |
| <small>梅取先生社中之畫 諸名公拓體贊詩</small> | 遊戲画帖 | 全 | 西遊紀行 | | 二冊 |
| 解體新書 | 阿蘭陀腑分之書 杉田玄伯著 | 五冊 | 四溟陳人詩集 | | 三冊 |
| 同 | 約圖 | 同右 | 五枚 | 郊華集 | 全 |
| 名物画譜 | 雪溪先生筆 | 三冊 | 繪本いろは歌 | 春信筆 | 三冊 |
| 市隱草堂集 | 安文仲著 | 五冊 | 繪本色紙の時 | 北尾重政筆 | 三冊 |
| 詩學楷梯 | 東里先生輯 | 四冊 | 誦諧名所方角集 | 谷素外輯 | 二冊 |



